

はねっと 3

仙台市市民活動サポートセンター通信 ぱれっと

「ぱれっと」には、仙台市市民活動サポートセンター(サポセン)にいろいろな人が集まり、それぞれの色(個性)が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。



一歩踏み出す気持ち芽生える「ワクワクビト」

やってみたいことがあれば、話を聴かせて

一般社団法人 荒井タウンマネジメント

ぬまさと りえ
事務局次長 **沼里 理恵**さん(44)

「荒井タウンマネジメント」は、地下鉄東西線荒井駅を起点とした荒井東地区の長期的な価値向上に取り組んでいます。荒井東地区は東日本大震災の後、被災者の住宅再建地となり新旧住民が混在する状況に。「この10年で世帯数は4倍に増えた。顔の見える関係づくりが私の仕事です」と沼里さん。地域の人たちと一緒に、地場野菜や手作り小物などを販売する「荒井なないろマルシェ」を仕掛けたり、荒井の外から人を呼び込むためのイベント「あらフェス」を運営したりしています。沼里さんは、「イベントひとつにするにも、毎回一緒に準備をする地域の方々の活躍が欠かせない」と話します。

出身は千葉県。東京で働いていた2011年に東日本大震災が起こりました。被災地への支援活動を始めた友人たちから「人が足りない」と事務作業を頼まれたり、「連休に泥かきに行こう」と誘われたりする度に、「何かできるなら」と手伝いを引き受けてきました。仕事を辞め、被災地支援に舵を切ったのは同年11月。決断を促したのは、「中途半端に被災地に関わってしまったのでは」という区切りのつかない気持ちでした。岩手県で被災者の雇用創出事業に関わり、気持ちにも決着が着きつつあった2013年。現職への誘いが



舞い込み荒井での活動が始まりました。事務所に常駐する沼里さんのもとにはいつも「町内会で七夕まつりをやりたい」「合唱サークルのコンサートを開くにはどうしたらいい?」「ちょっと思いついたんだけど…」と、地域の人たちの困りごとやアイデアが持ち込まれます。沼里さんは、ちょっとした事務作業や調整を引き受けたり、必要に応じて周辺の公共施設や地元企業、町内会などをコーディネートしたりし、実現や解決に向けて奔走してきました。「少し面倒だけど、誰かがやらなくてはいけないことを手伝うこと」と自身の役割を話します。

地域の人たちと力を合わせ育んできたのは「一緒にまちをつくっている」という意識。住民主体の企画も増え、それがみんなの居場所にもなっています。「こんな風に“人”がまちをつくっていくのだと実感した」と沼里さん。その一人として、今日も地域の人たちの声に耳を傾けます。

一般社団法人 荒井タウンマネジメント

かつて田園地帯だった荒井東地区では、地下鉄東西線開通を視野に入れ、2004年から住民・事業者・行政・NPOらによって市街地化が計画されていました。会議体である「街づくりを考える会」は、2012年に「荒井東まちづくり協議会」に発展。荒井東地区は、震災で津波の被害を免れたため、計画に復興公営住宅の整備などの事業が追加されました。2013年、具体的に事業を推進する組織として協議会から「荒井タウンマネジメント」が誕生。コミュニティ形成事業、エコタウン事業など5つの事業を通じて、まちの持続可能な発展に向けた地元・民間・市による「協働まちづくり」に取り組んでいます。

仙台市若林区荒井7丁目37番地の1 アライデザインセンター202

TEL 022-352-4774



▲荒井なないろマルシェ



▲HP



市民活動団体を紹介「市民活動突撃レポート！」

災害時にも温かくて栄養満点の食事を

宮城キッチンカー協会(以下、協会)には、クレープ、カレーライス、たこ焼きなどを販売する移動販売業者約40社が所属します。協会は様々な催事に出店し場を盛り上げるだけでなく、移動販売の特徴である高い機動力を活かして、災害時の炊き出しにも力を入れています。ライフラインが止まった被災地でも、車内調理で出来立ての料理を届けることができます。たこ焼き屋を営む、会長の佐藤幸弘さとうゆきひろさんは「食事はただ空腹を満たすだけではなく、心を満たすもの」と話します。

東日本大震災時、佐藤さんは地元名取市で被災しました。震災前から、療養のため働くことができない状況でしたが、写真洗浄ボランティアなどに参加。「名取の復興のためにもっと何かしたい」という思いが芽生えていました。友人に誘われ、名取市閑上のソウルフード



▲会長の佐藤さん

「閑上たこ焼き」の復活プロジェクトに携わることに。閑上の仮設商店街で始め、終了後は自らレンタル車両で名取市の仮設住宅を巡り、閑上たこ焼きを届けました。活動を通して関係を築いた人が次の

届け先を紹介してくれ、人との繋がりも広がりました。そんな中間いたのは「被災時、あったかいものが食べられなかった」という声。「もう誰にもそんな思いはさせたくない。次の災害では炊き出しに行く」と決意し、2017年移動販売業者の仲間と共に、炊き出しを目的とした協会を立ち上げました。運営の仕組みは、協会が会員に販売場所を紹介した際、会員はそこでの売り上げの一部を協会に支払い、それを運営費と災害時の炊き出し資金として活用するというもの。2022年には、名取市、日本赤十字社宮城県支部、スーパーを展開する会社と炊き出しに関する協定を結びました。佐藤さんは、「自分を支えてくれた地元の人への恩返しのため」と話します。災害はいつどこで発生するか分かりません。今後は、全国の移動販売業者の団体に炊き出し活動の意義を広め、災害時には互いに物資や資金提供など支援し合える仕組みを作ろうとしています。

一般社団法人 宮城キッチンカー協会

名取市大手町1-1-22
TEL 050-3733-1259



▲出店依頼はこちら



活動を始める一歩を応援「コトハジメ」

海岸清掃に出かけよう！学生と企業のコラボで地元の課題を解決

CARAV@Nキャラバンは、宮城の課題解決を目的とした活動を通じて、学生と企業がつながる機会をつくる学生団体です。活動の一つ「WhiteBeach」は、仙台市の海岸清掃をするボランティア活動です。きっかけは、学生たちが企業との交流を通じて、東日本大震災による災害廃棄物の漂着について知ったこと。不定期で20~30人の学生や社会人が集い、災害廃棄物やそれ以外にも大量にあるゴミを拾っています。清掃場所は仙台港や蒲生干潟など。「地元に貢献したい」「学生や企業とつながりたい」という人など誰でも参加可能。詳しい情報や質問はホームページから。

CARAV@N

仙台市宮城野区苦竹3-1-6 STUDIO0080
Mail info@caravan8.jp



▲CARAV@NのHP



参加
お待ちしております！

つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。お気軽にご相談ください。

今月の休館日 3月8日(水)、22日(水)

開館時間 月曜日～土曜日 9:00-22:00

日曜日・祝日 9:00-18:00

休館日 毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日) 年末年始

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042

[ホームページ] <https://sapo-sen.jp>

[サポセンブログ@仙台] <https://blog.canpan.info/fukkou/>

「ばれっと」バックナンバーは
ホームページからダウンロードできます。



ほぼ毎日更新している「サポセンブログ@仙台」で、取材の様子やこぼれ話を配信しています。

編集・発行

仙台市市民活動サポートセンター

(指定管理者：特定非営利活動法人
せんだいみやぎNPOセンター)

発行日 2023年3月1日

デザイン PEACE Inc.

[Twitter]

@SCSC4CA

[YouTube]

サポセンちゃんねる

